

お寺のデイサービス

還る家とともに

かえるいえ

生と老いと病と死と、
喜びも悲しみも、ともに歩みたい…
誰もがいつでも
心の深呼吸ができる場所

〒244-0002

横浜市戸塚区矢部町125

電話 045-881-0348

FAX 045-881-0379

E-mail@zenryouji.jp

<http://www.zenryouji.jp>

発行責任 善了寺還る家ともに

還る家 ともに日誌



今年も成宮造園さまのご協力の下、**そうめん流し**が行われました。初めての方から4回目の方、また今年は、ご家族様たちとの交流の場として、広くご案内も差し上げました。流す人も食べる人も、みんな童心に返って夢中でした。食後も風鈴の音を聞きながら、自然の風の有難さを話しながら風流に過ごしました。

研修報告

富山型デイサービスの見学 「このゆびとー
まれ にぎやか かつぱ庵 孫の手」

パート1

・お年寄り、赤ちゃん、学童、障害者などが一緒に過ごしていた。世の中のあり方としてとても大切な事だと思いました。今の世の中はお年寄り、赤ちゃん、学童、青年、障害者など、さまざまな人たちが構成されているのだから、それらが生活場面で融合することがないこと自体が不自然は世の中であると思う。今、自分で子供を産むまで、赤ちゃんと接することのない生活、身近で死ぬ人がいない限り葬式の挙げ方がわからない生活の人が多と思う。そして、いつ障害をもってもおかしくない事を認識できないでいる不思議がある。隣の人がどんな人か知らないで生活が成り立つ世の中で、障害を持った人と接することもまた、非常に少ない。接する機会が少ないからわからなくて理解できない。理解できないから怖い。だから、一緒にいることを拒否したり、変にかまえてしまったりするのではないだろうか？戦後、核家族になって、わずらわしい人間関係をさけることができる世の中に移り、人と接することが下手な人間ばかりになってきたように思う。核家族だから、年寄りとはどんな考え方をするのか、どう年をとるのかわからない。だから年をとるのが怖い。たまに接すると煩わしい。年寄りにしても、青年にしても、身近にたくさん赤ちゃんがないから、赤ちゃんの泣く声に耐えられない。自分本位の生活になれているからしんどい。億劫になるのではないか？核家族より、2世帯、3世代同居の方が、子供の情操教煩わしさを超えて、歳を重ねていく姿を見ることができる。そこには、老いていくものの、弱さ、強さを肌で感じることができるようになります。もっともっと、人と人が交じり合って、ごちゃごちゃして生活することが、大切だと感じます。そういった意味で、富山型デイサービスは理想の世の中を小さくまとめたように感じました。富山型デイサービスが良いのではなく、人間関係が疎遠な世の中であって、あたりまえの人間関係を育もうとしている姿に共感しました。

神代洋子

編集後記

夏至の夜、キャンドナイトで、ろうそくの明かりで、境内を照らして、イベントをしました。「幻想的でキレイ」ということだけでなく、辻信一先生のスローな生き方に共鳴しました。スローだからこそ、見えてくる様々なものや人のつながりや息づかい、不便だからこそ大切にされる環境。自然に両手が合わさり頭が下がる思いでした。「出来ることから始めよう」と思い立ち、化学肥料を買うのは簡単ですが、以前より、作っている残飯からの有機肥料。夏は臭いし、蚊に刺されるしで、ヘコミそうでしたが、続行しようと思います。ゴミも減るし、来年か再来年ごろには、おいしい野菜の源として畑にまくことが出来るでしょう。坊

ボランティアさん 敬称略

中嶋 芳江	秦野かねよ
安藤 信子	竹中 秀子
西岡美都里	寺島 美代
渡井 敏子	朝倉 好子
別府与志子	濱崎 芳子
市野和歌子	弓削 福子
矢口 和子	秦野 雅子
前本 功	有働 桂子
斉藤 悠子	藤野 淳子
遠嶋 信子	藤井千恵子
八蔵巻靖子	市川八重子
米村 正男	小寺 久枝
江田 峯子	中島 雄子
土田 正夫	大木 真紀
村井ヒテ子	江尻 伸子
牛島 寛子	大金スエ子
金原美枝子	仙庭 治恵
犬塚 照夫	松村 節子

お礼

開所当初から、スーパーのレジ袋を大勢の方々から、ご寄付いただきました。今まで汚物やごみの処理で大変助かりました。しかし、地球温暖化対策に伴い、うちでもレジ袋を乱用していたことを反省し、ごみの減量化に向けて努力していかなければならないと思っています。今まで、ご協力いただいた方々、ありがとうございました。

ボランティアさん募集

お話相手、お食事づくり、カラオケ、習字(生徒)、手芸、園芸などの趣味活動
ご都合にあわてお力をお貸しください。詳細はお問い合わせください。

